



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3560		
科目名	国際協力論		
担当教員	中村 長史		
対象学年	3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	木 1		
講義室	1206	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・危機管理		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-I [理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 C1 倫理的思考・社会認識（10%） E1 学識と専門技能（50%） G1 状況把握（20%） I3 情報分析（20%）		
教員の実務経験	教員自身に実務経験はありませんが、外務省や内閣府、海上自衛隊からの委託で実務家の人々と共同で政策に関わる研究をしてきた経験を活かして講義を行います（第13回、第14回）。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	現代の国際安全保障の領域において、日本の防衛政策、防衛制度は国家安全保障の枠を超えた活動が求められています。具体的に言えば、国連PKO、国際平和復興協力、ODA、国際緊急援助隊など、国際的な協力活動が求められる時代です。国連や様々な国際機関によって、平和構築のための様々な取組が行われており、その活動の実態や効果、影響について具体的かつ理論的に考察を行います。戦争、紛争の問題を解決するために必要な国際協力のあり方について理解を深めることを目標とします。授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 平和構築・人間の安全保障・法の支配による平和構築・国連平和維持活動（PKO）・政府開発援助（ODA）		
授業の趣旨	■副題 国際協力、平和構築とは何かについて学修したうえで、日本の国際貢献のあり方について考察します。 ■授業の目的 本講義は、特に平和構築に通ずる国際協力の取組に焦点を当て、国際協力の基本的概念、具体的取組、課題などについて理解・考察することを目的とします。 ■授業のポイント 今日の国際社会は、国家間の武力紛争のみならず、内戦、国際テロリズム、大量の難民・国内避難民の発生、ジェノサイドなどの大規模人権侵害、さらには貧困・食糧問題など、実に様々な脅威や問題に直面しています。これらの問題に対処するためには、「国際協力」が不可		

	欠であり、国連や様々な国際機関、他の主体などとおし、「平和構築（Peacebuilding）」のための様々な取組が行われています。 本講義では特に、「人間の安全保障」概念や、法の支配をととした平和構築の実現など、多角的な視点から国際協力のあり方について検討することを射程とします。また、国際社会において日本はどのような国際貢献ができるのかという観点から、国連平和維持活動（PKO）への参加や政府開発援助（ODA）など、日本の国際協力についても併せて検討します。								
総合到達目標	■国際協力、平和構築の基本概念について説明できる。 ・近年の国際社会が様々な危機や脅威に晒されていることを認識した上で、そうした諸問題の解決には国際協力が不可欠であることを理解し、具体的な解決策について自らの言葉で説明できる（第1回～第15回）。 ・国際協力、平和構築とは何かについて説明できる（第2回）。 ・現代世界の武力紛争の構図について説明できる（第3回～第4回）。 ・武力紛争が発生・激化・再発するメカニズムについて、具体的事例を示しつつ説明できる（第5回～第8回）。 ・武力紛争の発生・激化・再発を防止するための国際協力や平和構築の在り方について、具体的事例を示しつつ説明できる（第9回～第15回）。								
成績評価方法	■リアクションペーパー、授業内容に関するミニテスト 3～5回（授業の進度により、回数が変更となる可能性があります）（20%）：適用ルーブリック C1、F1、H1 （評価の観点）授業の内容を踏まえ、自ら考え理解しようとしているかどうかを評価します。 （フィードバックの方法）次の回の授業において解説をします。 ■中間テスト（授業の進度により実施回を変更することがあります。） 1回（30%）：適用ルーブリック C1、E1、F1、G1、H1、I3 （評価の観点）授業の内容について理解し、自らの言葉で説明することができているかを評価します。 （フィードバックの方法）：提出後、解説を行います。 ■まとめのテスト（授業の進度により実施回を変更することがあります。） 1回（50%）：適用ルーブリック C1、E1、F1、G1、H1、I3 （評価の観点）授業の内容について理解し、自らの言葉で説明することができているかを評価します。 （フィードバックの方法）提出後、解説を行います。								
履修条件	特にありません。								
履修上の注意点	授業中の私語は厳禁とします。								
授業内容	<table><tr><th>回</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の狙いと内容、授業計画、成績評価、参考文献、受講の際の留意点などに関する説明をとし、授業の全体的な概要を理解する（E1）。 ③予習（90分） シラバスの内容を確認する。 ④復習（150分） 講義ノートを見直し、授業の狙いや内容などについて確認する。 </td></tr><tr><td>2</td><td> ①授業テーマ 国際協力・平和構築とは何か ②授業概要 国際協力・国際貢献とは何か、なぜ国際協力をするのか、国際協力について学ぶ意義、破綻国家とは何かについて説明できるようになる（E1、G1）。授業終了時にリアクションペーパーを課す可能性があります。 ③予習（120分） 破綻国家の事例について調べ、ノートにまとめる。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、破綻国家の要素、破綻国家と類似の概念についてまとめる。 </td></tr><tr><td>3</td><td> ①授業テーマ ロシア・ウクライナ戦争と国際協力・平和構築 ②授業概要 ロシア・ウクライナ戦争の構図、原因、平和に向けた対策について説明できるようになる（E1、I3）。授業終了時にリアクションペーパーを課す可能性があります。 ③予習（120分） 国連の組織の概要について、国際条約集の裏表紙などを用いて確認する。 ④復習（120分） </td></tr></table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の狙いと内容、授業計画、成績評価、参考文献、受講の際の留意点などに関する説明をとし、授業の全体的な概要を理解する（E1）。 ③予習（90分） シラバスの内容を確認する。 ④復習（150分） 講義ノートを見直し、授業の狙いや内容などについて確認する。	2	①授業テーマ 国際協力・平和構築とは何か ②授業概要 国際協力・国際貢献とは何か、なぜ国際協力をするのか、国際協力について学ぶ意義、破綻国家とは何かについて説明できるようになる（E1、G1）。授業終了時にリアクションペーパーを課す可能性があります。 ③予習（120分） 破綻国家の事例について調べ、ノートにまとめる。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、破綻国家の要素、破綻国家と類似の概念についてまとめる。	3	①授業テーマ ロシア・ウクライナ戦争と国際協力・平和構築 ②授業概要 ロシア・ウクライナ戦争の構図、原因、平和に向けた対策について説明できるようになる（E1、I3）。授業終了時にリアクションペーパーを課す可能性があります。 ③予習（120分） 国連の組織の概要について、国際条約集の裏表紙などを用いて確認する。 ④復習（120分）
回	内容								
1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の狙いと内容、授業計画、成績評価、参考文献、受講の際の留意点などに関する説明をとし、授業の全体的な概要を理解する（E1）。 ③予習（90分） シラバスの内容を確認する。 ④復習（150分） 講義ノートを見直し、授業の狙いや内容などについて確認する。								
2	①授業テーマ 国際協力・平和構築とは何か ②授業概要 国際協力・国際貢献とは何か、なぜ国際協力をするのか、国際協力について学ぶ意義、破綻国家とは何かについて説明できるようになる（E1、G1）。授業終了時にリアクションペーパーを課す可能性があります。 ③予習（120分） 破綻国家の事例について調べ、ノートにまとめる。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、破綻国家の要素、破綻国家と類似の概念についてまとめる。								
3	①授業テーマ ロシア・ウクライナ戦争と国際協力・平和構築 ②授業概要 ロシア・ウクライナ戦争の構図、原因、平和に向けた対策について説明できるようになる（E1、I3）。授業終了時にリアクションペーパーを課す可能性があります。 ③予習（120分） 国連の組織の概要について、国際条約集の裏表紙などを用いて確認する。 ④復習（120分）								

		講義ノートを見直し、ロシア・ウクライナ戦争の構図、原因、平和に向けた対策についてまとめる。
4	①授業テーマ シリア紛争と国際協力・平和構築 ②授業概要 シリア紛争の構図、原因、平和に向けた対策について説明できるようになる（C1、E1、G1）。授業終了時にリアクションペーパーを課す可能性があります。 ③予習（120分） 国境を超える国際的な諸問題にはどのようなものがあるか、それに対しどのような取組がこれまで行われているか、新聞記事などを検索し調べる。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、シリア紛争の構図、原因、平和に向けた対策についてまとめる。	
5	①授業テーマ 武力紛争の歴史と概念 ②授業概要 武力紛争の歴史や概念などについて説明できるようになる（C1、E1、G1）。授業終了時にリアクションペーパーを課す可能性があります。 ③予習（120分） 武力紛争の事例について、新聞記事などを検索し調べる。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、武力紛争の歴史と概念についてまとめる。	
6	①授業テーマ 武力紛争発生・激化のメカニズム ②授業概要 武力紛争が発生・激化するメカニズムについて説明できるようになる（C1、E1、G1）。授業冒頭にミニテストを実施し、解説する可能性があります。 ③予習（120分） 新聞記事などで武力紛争が発生・激化した事例を検索する。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、武力紛争が発生・激化するメカニズムについてまとめる。	
7	①授業テーマ 武力紛争再発のメカニズム ②授業概要 武力紛争が再発するメカニズムについて説明できるようになる（E1、I1、I3）。 ③予習（120分） 新聞記事などで武力紛争が再発した事例について検索する。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、武力紛争が再発するメカニズムについてまとめる。	
8	①授業テーマ 中間テストと解説 ②授業概要 これまでの授業での学習を総括し、中間テストおよびその解説を行う（E1、I1、I3）。 ③予習（120分） これまでの講義ノート全体を見直し、不明な点等がないか確認する。 ④復習（120分） これまでの講義と中間テストを振り返り、理解不足の箇所がある場合には十分に復習する。	
9	①授業テーマ 平和構築の歴史と概念 ②授業概要 平和構築の歴史と概念について説明できるようになる（E1、I3）。授業終了時にリアクションペーパーを課す可能性があります。 ③予習（120分） 平和構築の事例について、新聞記事などを検索し調べる。 ④復習（120分） 講義ノートを見直し、平和構築の歴史と概念についてまとめる。	
10	①授業テーマ 武力紛争の発生防止策：予防外交・予防行動 ②授業概要 武力紛争の発生防止策として、予防外交・予防行動について説明できるようになる	

	(C1、E1、G1)。 ③予習 (120分) 武力紛争の予防について、新聞記事などを検索し調べる。 ④復習 (120分) 講義ノートを見直し、予防外交・予防行動の留意点についてまとめる。
11	①授業テーマ 武力紛争の激化防止策①：仲介 ②授業概要 武力紛争の激化防止策として、仲介について説明できるようになる (C1、E1、G1、I3)。 ③予習 (120分) 仲介について、新聞記事などを検索し調べる。 ④復習 (120分) 講義ノートを見直し、仲介の留意点についてまとめる。
12	①授業テーマ 武力紛争の激化防止策②：軍事介入 ②授業概要 武力紛争の激化防止策として、軍事介入について説明できるようになる (C1、E1、G1、I3)。授業冒頭にミニテストを実施、解説する可能性があります。 ③予習 (120分) 軍事介入について、新聞記事などを検索し調べる。 ④復習 (120分) 講義ノートを見直し、軍事介入の留意点についてまとめる。
13	①授業テーマ 武力紛争の激化防止策③：人道支援 ②授業概要 武力紛争の激化防止策として、人道支援について説明できるようになる (E1、G1、I3)。教員の委託共同研究の経験を踏まえて講義します。 ③予習 (120分) 人道支援について、新聞記事などを検索し調べる ④復習 (120分) 講義ノートを見直し、人道支援の留意点についてまとめる。
14	①授業テーマ 武力紛争の再発防止策：国家建設・国際刑事裁判・和解 ②授業概要 武力紛争の再発防止策として、国家建設や国際刑事裁判、和解について説明できるようになる (E1、G1、I3)。教員の委託共同研究の経験を踏まえて講義します。 ③予習 (120分) 国家建設や国際刑事裁判、和解について新聞記事などを検索し調べる。 ④復習 (120分) 講義ノートを見直し、国家建設や国際刑事裁判、和解の留意点についてまとめる。
15	①授業テーマ 期末テストと解説 ②概要 これまでの14回の授業での学習を総括するとともに、国際社会の変容と日本の国際協力の課題について説明できるようになる (E1、I3)。 ③予習 (120分) これまでの講義ノートを見直し、不明な点等がないか確認する。 ④復習 (120分) 講義全体を振り返り、今後の履修計画 (国際協力論の関連科目など) を検討する。
関連科目	国際法 (RMGT3451)、安全保障論1 (RMGT3551)、安全保障論2 (RMGT3554)、国際政治学 (RMGT3552)、防衛法制 (RMGT3452)、防衛政策 (RMGT3557)、国際人道法 (RMGT3453)
教科書	開講時に指示します。
参考書・参考URL	初回授業および各回の授業において適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に伝えます。 ■オフィスアワー 授業前後の時間に対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント15%：パブリックセキュリティ20%：グローバルセキュリティ60%：情報セキュリティ5%

■危機管理学と法学とのバランス
法学35%：危機管理学65%



Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.